

新入生をお迎えして ～医学部における学業と医学のフロンティア～

東北大学医学部長・医学系研究科長

五十嵐 和彦



医学部学生の保護者の皆様におかれましては、日頃より医学部ならびに医学部学生後援会(PTA)に多大なご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

入学式に合わせて医学部学生後援会が開催した入学記念祝賀会には、多数の保護者の皆様にご参加頂きました。

東北大学でこれから4年間、あるいは6年間にわたる学業の概要を把握して頂けたかと思えます。また、6月10日には東北大学懇談会が開催され、医学部学生の保護者の皆様も大勢ご参加頂きました。

私たち教員にとってご家族と直接お話をさせて頂く重要な機会ですので、伊藤理事、八重樫病院長、吉沢副医学部長、石井医学科長、菅原保健学科長と一緒に懇談会に参加させて頂き、学生生活の様子をお伝えし、ご家族の疑問にお答えする良い機会となりました。里見総長(前病院長)ともご歓談頂いたようです。

私がお話をさせて頂いたお母様からは、学業の進み具合を子供に尋ねても教えてくれないと伺いました。実は、医学部における勉学は分子から社会まで、実に広い領域をカバーするもので、日々の努力の積み重ねが肝要ですが、中にはつまり学生や将来を悩む学生がいるのも事実です。ご子息ご息女が問題なく学業に励んでいるか、折々に学生生活の様子をお聞き頂きますようお願い申し上げます。学生諸君は、自分がどのようなことを学びつつあるのか、どういった将来を考えているのか、帰省の折などにぜひ家族の皆さんへ説明して下さい。

医学部では医学科と保健学科、二つの学科が協力して患者さんに寄り添える豊かな人間性を備えた、今後の日本・世界の医療をリードし得る優れた医療人、そして、新しい医学を開拓する研究者を教職員一丸となって育成しております。

医学科では、学生の個別指導を特に重視しています。少人数PBL(問題解決型)教育のほか、40週にわたる研究室配属(3年次基礎医学修練、6年次高次臨床修練)を通じて、学生の個性を伸ばす教育を実現しています。

保健学科では、講義、学内・臨地実習、さらには8ヶ月におよぶ卒業研究を通して、高度な医学知識・医療技術を有する学生を育てています。学生がカリキュラムの特色をどのよ

うに活かして学んでいるのか、ご家族の間での理解も深めて頂ければ幸いです。

さて、本医学部は2015年に東北帝国大学医科大学から数えて設立100周年を迎え、次の100年に向けて歩み始めています。新しい活動の柱の中から二つ紹介させていただきます。

一つはゲノム医療の開発です。世界的に、ゲノム(遺伝子)の情報を様々な病気の治療に活用するための研究が大きく進みつつあります。そして、約30億の文字(塩基)からなるヒトゲノムDNAの配列には膨大な多様性があることがわかってきました。本研究科が中心となって立ち上げた東北メディカル・メガバンク機構が地域住民約2,000人のゲノムを調べた時点で、およそ2,000万個もの文字の違い(多型)が見つかりました。この膨大な文字の違いが組み合わさってつくり出すゲノムの多様性は、人それぞれの特徴が決まる上で大きな役割をはたしていると考えられますし、各自の病気のなりやすさや治療の効果なども左右すると予想されます。このようなヒトゲノムの多様性に基づいた医療、すなわち、個人個人に最も適切な治療、さらには病気の予防を実現するため、本研究科は大学病院、東北メディカル・メガバンク機構と協力して研究教育に取り組んでいます。東北大学が日本、そして世界のゲノム医療の中心となっていくことを次の100年へ向けた大きな目標としています。

もう一つは、災害科学国際研究所と連携した災害医学に関する研究と診療体制の構築です。これは、地域毎の盲点を事前に調査し、災害に対する適応力や回復力(レジレンス)をあげるための実践的防災学としての医学研究、そして、その成果を災害医療に結び付ける試みです。限られたリソースを活用して被災者の「健康被害軽減・後遺症減少・健康回復と向上」を実現することは、高齢化社会を迎えている日本の医療にも大きく資するものと考えています。

このように、医学のフロンティアは実に広大です。学生諸君は医学の多彩な領域を学びながら、医療人や教育研究者としての将来を模索してください。保護者の皆様におかれましては、引き続き本医学部の教育研究にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

東北大学医学部生の皆様を学生後援会(PTA)は応援しています。

東北大学医学部学生後援会(PTA)会長
東北大学大学院医工学研究科分子病態医工学分野
東北大学大学院医学系研究科病態液性制御学分野

阿部 高明



盛夏の候、ご父兄の皆様方に於かれましてはご健勝のことと存じます。

さて、新学期が始まり既に3ヶ月が経ちました。新入学の学生さんは高校とは違う新たな環境で、学業とクラブ活動に打ち込んでおられると思います。また、在校生の学生さんは次学年に進級し、より専門的な勉学に進み、部活に於いても次第に重要な役割を担っている事でしょう。特に医学部の体育大会である東医体を8月に控え、運動部の学生さんは大変忙しい時期を迎えます。

現在、東北大学医学部医学科で教育プログラムの大きな変化がなされています。それは医学教育プログラムを世界医学教育連盟の国際基準にそって改訂することです。具体的には医学教育に於ける臨床実習時間の延長です。今までは患者さんを担当する病棟実習は医学部5年生になった4月から始まっていましたが、今年からは4年生の後半の3月から病棟実習が始まります。また、昨年からは6年生の高次修練期間が4ヶ月(4月から7月)から夏休みを挟んで5ヶ月(4月から9月)に延長されました。さらに、臨床修練時間を延ばすために今までは3年生から始まっていた臨床系講義が2年生後半から始まるようになってゆきます。具体的には、

1年生は、今年から専門科目(今までは2年生で習っていた科目)が秋から入ってきます。

2年生は、昨年通りのカリキュラムで進みますが、昨年は2年生から3年生に進級出来なかった学生さんが多数いたようですので声をかけてあげてください。

3年生は、この秋から3ヶ月間基礎の研究室に配属となりフルタイムで研究を行う教室の下見をしております。基礎配属期間中にNIHなど海外で行うシステムも国際交流室などが連携して進めて行く方針と聞いております。

4年生は、この冬に病棟実習が始まる前の資格試験として学力を測定するCBT試験と患者さんへの対応や診断手技の習得度を確認するオスキー試験という2つの関門を通らないと臨床修練に進めないというハードルがあります。昨年と違い4年生の

3月から病院実習を行ないます。

5年生は、今年4月から病棟実習が始まり、初めて患者さんと接することで医師(スチューデントドクター)としての洗礼と自覚をもたれたことでしょう。

6年生は、来年から就職する病院を決めるために、病棟実習の合間を縫って各研修病院に見学に行かれています。また、それぞれの病院の就職試験の準備と最後の東医体、9月に行われる臨床研修マッチングと最後の追込みの期間です。

一方、医学部保健学科では看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3つの専攻があり、各専攻はそれぞれ高度な専門性と充実した環境の中で、卓越した教育を行っております。また、最新の保健、医療さらに、その分野を支える人間性豊かな優れた人材の育成にも取り組んでおります。

1・2年生は、主に全学教育科目(3専攻共通)により、専門教育の基礎的素養を養うとともに柔軟な思考力を身につけます。

1~3年次にかけての専門基礎科目(各専攻毎)では、基礎・臨床医学を学び医療の早期体験をすることや医療チームアプローチ意識の養成を行います。

1~4年次にかけての専攻専門科目(各専攻毎)では、最先端医療を学び指導者や教育者としての資質を身につけます。

3~4年生にかけての医療現場での本格的な実習(各専攻毎)では、幅広い専門知識と最先端の診療技術や実際に患者さんの接遇についても学びます。また、きめ細かな国家試験対策を行い、合格率100%を目指しております。

さらに、最近の国際化に伴い英語教育にも力を入れており、その一環として外国人教員も雇用しております。

このように教育全体が大きく変わっており、今まで以上に学業にも打ち込んで頂くよう夏休みにお会いした時には、お子さんにお話をして下さい。

— 研究室(分野) 紹介 —

医学科・医療倫理学分野

医学部医学科

講師 大北 全俊

医療倫理学分野は、病院や在宅といった医療臨床をはじめ、公衆衛生や医学系研究などの場面で問われうる倫理的

な問題についての研究、教育そして実践にたずさわる分野です。終末期医療、医療者の守秘義務に関する議論など、



以前より議論されてきたテーマも医療をとりまく社会状況の変化に応じて依然として倫理的な議論の対象であり続けています。同時に、ゲノム編集などに代表されるような新しい医療技術に伴い生じてくる倫理的な懸念に関する議論が活発化しています。

また、公衆衛生においても、感染症対策に伴って生じる個人の行動制限など古くからなされてきた倫理的な議論と並行して、社会の格差化に伴う健康問題や医療制度のあり方など、現代社会のあり方について問題とすることが要求されるようなテーマも無視することのできない重要なものと捉えられるようになってきました。そして、人を対象とする医療・公衆衛生の研究をめぐる倫理的な課題も新聞を賑わすような研究不正等の事件の報道や行政による指針策定の動きなどによって、広くその存在が知られるようになってきています。

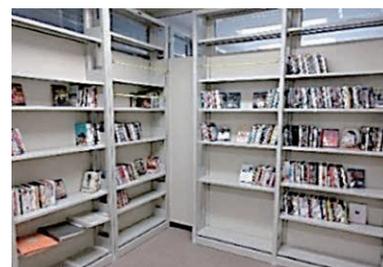
このように、医療倫理学分野では、医療の社会的重要性の深化に伴い不可避に生じる倫理的な課題に、その歴史的議論の変遷をおさえつつ、現在の課題に応答するべく研究を遂行しています。ここ数年、論文にまとめるなど当分野

が取り組んだ主たるテーマは、臨床倫理コンサルテーション、守秘義務、医療保険制度、慢性疾患医療、ヘルス・プロモーション、研究倫理教育など臨床場面の倫理から公衆衛生、医療制度、研究倫理と多岐にわたっています。

以上のようなテーマに関する研究を踏まえつつ、医療プロフェッション育成において、学部及び大学院での倫理教育にたずさわっています。一方向的な講義に終始することなく、グループワークなど学生自身が諸テーマについて思考できるよう工夫しています。また、医療倫理の教育においては、倫理的なテーマについて抽象的な概念や理論ばかりではなく、具体的なイメージをもってその場の状況や関わる人々の背景、感情などに想像力を及ぼすことも求められます。そのために、映画など映像資料を用いる工夫も続けています。

本年度より、修士課程、博士課程に分野所属の大学院生が入りましたので、医療倫理の研究・教育・実践にたずさわる後進の育成も本格的に始まることとなりました。

研究・教育以外の実践としては、学内外の研究倫理審査をはじめ、定期的に病院の医療安全推進室と共催で臨床倫理事例検討会を開催し、より臨床に近い場で倫理的な課題について検討し現場に還元することを試みています。同じく、病院での臨床倫理コンサルテーション（医療倫理委員会の下部機関）も、コンサルタントのメンバーとして分野の教員が関わっています。



保健学科・分子機能解析学分野

医学部保健学科検査技術科学専攻

教授 林 慎一

当分野は、分子検査学分野という名称で2004年4月に本学保健学科のスタートと同時に始まり、2008年4月に大学院設置で分子機能解析学分野として大学院教育が開始されました。

当分野では、検査医科学の基礎となる領域、特に生化学、分子生物学、臨床化学、分析化学等の教育・研究を行っています。研究では、臨床生化学検査領域の新たな分析法開発、新規診断マーカー探索、その動態解明を目指しています。特に、現在の研究対象としては、乳癌などのステロイドホルモン依存性腫瘍の研究を行っています。

近年、わが国において乳癌の患者さんは急速に増加しつつあり、有名人の乳癌罹患のニュースなど、たびたびマスコミの話題になっていることはご存知でしょう。乳



癌のほとんどは、女性ホルモンであるエストロゲンが深く関わって発症、進展します。しかし、そのメカニズムは未だ完全には解明されていません。

一方で多くの乳癌の患者さんは、ホルモン療法というエストロゲン作用を遮断する治療を受けています。この治療は多くの乳癌に対して非常に効果的で、しかも副作用も比較的軽微であることが知られています。

しかし、再発をきたすとその後の治療が難しいのも事実です。そのような状況に対して、近年、分子標的治療薬という新しい薬剤が次々に開発され、臨床に用いられるようになってきています。それらの新薬は効果が期待できる症例に対して適切に用いられてこそ目覚ましい効果を発揮しますが、まだまだわかっていないことも多く、今後の研究が必要です。

当分野では、数年前から様々な進行再発乳癌を模倣した



モデル乳癌細胞を樹立して、それらを用いて各種新規分子標的薬の効果の検証、適応となるべきタイプの乳癌の種類の設定、そのバイオマー

カーの探索など進行再発乳癌の治療ストラテジーの構築に役立つ基礎研究を行っています。

これらの研究には、本学保健学科出身の大学院保健学専攻の博士後期課程や前期課程の大学院生が中心になり、本学医科学専攻の院生や他大学医学部からの院生や医師なども加わり、また、卒業研究を行う学部4年生も一緒に、仲良く、楽しくをモットーにし、臨床に役立つ研究を目指して頑張っています。これまでに看護学出身者も2名参加しており、検査技師、医師、看護師と有資格の異なる人たちが一緒に多彩な発想で研究を推進しています。

当分野からこれまでに保健学科出身者では、18名の院生が巣立っていきましたが、その就職先は大学病院や市中病院、製薬企業、臨床試験支援企業など様々です。特に当分野では研究内容のせいか、製薬や臨床開発に興味を持つ学生が多く、企業への就職が多い傾向が見られます。将来、彼らが本学で学んだこと、そして、研究活動で得た貴重な経験や考え方を生かして医療関連分野の各方面で活躍し、わが国の医療、福祉のレベルアップに貢献してくれることを強く願っています。

平成28年度医学科三年次基礎医学修練発表会について

医学科運営委員会副委員長

虫明 元
片倉 世雄

医学科3年次基礎医学修練発表会実行委員会委員長

平成28年度の基礎医学修練発表会は、平成29年3月2日（木）、3日（金）の2日間にわたり行われ、口頭発表者が81人、ポスター発表者は13人でした。

今年の発表会は、聴衆者として1・2年生も加わり、例年以上に活発な議論・討論が行われ、大変盛況な会にすることができました。3年生は、分かりやすさを重視した発表をすることに努め、下級生はそれを聴いて来年以降の自らの指針を得ることで、知識が学年を通して受け継がれていくような雰囲気で満ち溢れておりました。

また、海外へ留学した学生による英語の発表もあり、英

語による質疑応答も行われ、日本とは異なる環境で得た有意義な経験が大変よく反映しており、新鮮な風が吹き込んでくるような素晴らしい発表会となりました。

発表会の運営は、全て学生で組織された基礎医学修練実行委員会によって行われ、少数ながらも各々が責任を持って仕事をこなしてくれたことで円滑に進行できました。発表会は、演題に対して、口頭・ポスターともに4つの評価項目を設け、3年次学生と教員でより公平な評価を行うようにし、特に優れた演題に対しては賞状と副賞として生協チャージ券を授与しました。



口演発表の様子



熱心な質疑応答

今年度の基礎医学修練は、多くの方々のご支援とご協力のおかげで無事終わることができました。特に、医学部学生後援会（PTA）のご支援により運営費を確保することが

できたことで、この会を質の高い有意義な会にすることができ、関係者一同、多大なるご支援に心より感謝を申し上げます。



ポスターセッション会場の様子



基礎医学修練発表会優秀者表彰式



実行委員会集合写真

医学部医学科卒業謝恩会の報告

平成 28 年度卒業生謝恩会代表 佐々木 純一

平成 29 年 3 月 24 日（木）に、平成 28 年度医学部医学科卒業生は教授をはじめ、大学の先生や職員、家族、友人、そのほか大勢の皆様のご祝福の中、晴れて東北大学を卒業いたしました。卒業式の夜、医学部学生後援会（PTA）様のご支援の下、江陽グランドホテルにおいてお



世話になりました方々への感謝の気持ちをこめて、卒業謝恩会を開催させていただきました。

当日は 60 名を超える先生、そして、多くの保護者の皆様方にご出席をいただき、大いにぎわいました。お忙しい中、ご出席いただきました皆様方に心から御礼を申し上げます。

会の冒頭で下瀬川徹医学部長から、「It takes a village to raise a child.」というお言葉を頂戴いたしました。これはアフリカに伝わる諺だそうで、「子供を育てるのはその親だけではなく、村全体である。」というのが元々の意味で、「君たち卒業生は、一人前の医者になるのに東北地方全体から育てられる。そして、君たちもまた東北地方という大きな村の一員である。」という意味を込めてくださいました。私たちは、東北地方全体に生まれ、そして、その種を次世代につないでいくという思いを新たにいたしました。次いで、八重樫伸生病院長の乾杯のご発声で謝

恩会が始まり、会の中ほどでは、学友会奇術部に所属していた橋本亮平君のステージがあり、会場は熱気に包まれました。会は終始笑顔にあふれ、6 年間先生方と過ごしてきた日々を凝縮したような親密で将来への希望にあふれた素敵な時間となりました。

最後に、里見進総長による御言葉と一本締めで会は終わりとなりました。4 月からは、全国各地に飛び立ち研修医としての第一歩を踏み出します。世界と対等に渡り合い、そして、国の礎となりうる存在になるべく研鑽に励む所存であります。

最後になりましたが、今回の謝恩会をはじめ、6 年間の学生生活を厚くご支援していただきました東北大学医学部学生後援会様に、厚く感謝を申し上げます。ありがとうございました。



医学部保健学科謝恩会の報告

平成 28 年度医学部保健学科謝恩会

幹事代表 佐藤 沙紀

去る、平成 29 年 3 月 24 日（金）に東北大学学位授与式が仙台市体育館で行われ、その日の夕刻 7 時から「平成 28 年度東北大学医学部保健学科謝恩会」をホテルメトロポリタン仙台で行いました。

当日は、4 年間お世話になった先生方や実習をさせていただいた病院や施設の方々など、大勢の皆様にご出席いただいたことに心より感謝申し上げます。また、この会を開催するにあたり、東北大学医学部学生後援会（PTA）様をはじめとする様々な方々に快くご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。ご支援により、出席された多くの方から「楽しかった」というお言葉を頂戴することができました。

謝恩会は、医学部長の下瀬川徹先生、保健学科長の清水律子先生よりご祝辞と乾杯の音頭を賜りはじまりました。保健学科三専攻の学生は、講義や実習、卒業研究などさまざまな場面でお世話になった先生方や施設の方々に感謝の気持ちを伝え、思い出話に花を咲かせ、改めて感謝の気持ちを抱いておりました。また、ビンゴ大会も行われ、会場は大変盛り上がり、楽しんでいただけたように見受けられました。そして、最後にこれまでお世話になった先生方に花束の贈呈を行い、感謝の気持ちを伝えることができました。

今年度で退職される斎藤秀光先生、佐藤喜根子先生、進藤千代彦先生には、花束贈呈の際にご挨拶をいただきました。その挨拶を聞き入る学生の姿には、退職される先生方と学生の繋がりを垣間見ることができたように思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい会を開催できたことをとてもうれしく思います。今後は、それぞれの道に進みますが、東北大学で学んだことを忘れずまた感謝の気持ちを胸に、日々精進していきたいと思えます。本当にありがとうございました。



医学部医学科第 7 回白衣式報告書

医学部医学科長 石井 直人

平成 29 年 3 月 21 日（火）に、東北大学医学部医学



科第 7 回白衣式が医学部開設百周年記念ホールー星陵オーデトリウムで開催されました。

下瀬川学部長を初め、教授、教育担当主任が列席し、来賓として東北大学病院長、看護部長、技術診療部長をお招きし、新 5 年次学生の保護者

の方々にも多数参観していただきました。

白衣式では、医学部長から新 5 年次学生代表へ大学



のロゴマーク入りの白衣が授与され、次いで、病院スタッフの一員となることを証するものとして病院カードが授与されました。続いて、各教授から新5年生全員に白衣が授与されました。



学生代表からは、医学生としての自覚と臨床実習に向けた心構えについて決意表明がありました。

今年度も荘厳な雰囲気の中、臨床実習開始の節目としてふさわしい式典となりました。



最後に関係者を代表して、医学部学生後援会（PTA）からのご援助に心から感謝を申し上げます。

平成 29 年度医学部新入生オリエンテーションを開催しました

医学部医学科長 石井 直人
医学部保健学科長 菅原 明

4月6日（木）に医学部新入生オリエンテーションを実施いたしました。



○ 医学科では、五十嵐医学部長の挨拶の後、教育課程や学生生活等についての説明を行い、昼食時には、アドバイザー教授と食事を摂りながら懇談しました。

新入生を4～5名の小グループに分け、アドバイザー教授の研究室で昼食を摂りながら、和やかな雰囲気ですぐに懇談することができました。

午後からは、小児感染症・B型肝炎抗原抗体検査のための採血、医学教育推進センター石井誠一准教授による学生歌の歌唱指導も実施しました。

最後に、在校生によるサークルの紹介を行い、教員・在校生全体で新入生を迎え入れることができました。

○ 保健学科では、五十嵐医学部長と菅原学科長の挨拶の後、授業の取り方等学科全体のオリエンテーション

を行い、引き続き、看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻の3専攻に分かれて、専攻オリエンテーションを行いました。

その後は、チューター教員と新入生との昼食懇談会を実施しました。4年間の大学生活の中で、勉学のみならず様々な面で相談に乗ってくれるのがチューター教員です。初めは緊張した面持ちの新入生も、昼食をはさんで先生方や同級生と親しく話すことができ、順調な大学生活が踏み出せたようです。



午後は、情報セキュリティの講習会や感染等の抗原抗体検査の採血と盛りだくさんの一日でしたが、無事オリエンテーションを終了することができました。

例年、医学部学生後援会（PTA）から昼食代等の必要経費のご援助をいただき、本当にありがとうございます。お陰様をもちまして有意義な新入生オリエンテーションを実施することができました。

医学部学生後援会(PTA)主催の入学記念祝賀会を開催いたしました

4月5日(水)の午前中は、東北大学全体の入学式が行われ、午後に医学部学生後援会(PTA)主催の事業である本年4月に医学部(医学科、保健学科)にご入学された新入生とその保護者の皆様を対象とした「入学記念祝賀会」を仙台市青葉区の「江陽グランドホテル」



で開催いたしました。当日は、柔らかな暖かい一日に恵まれ、約500名の参加者により大盛況の下で実施することができました。

最初に、五十嵐和彦医学部長からの挨拶の後、阿部高明学生後援会(PTA)会長からの挨拶がありました。本年も会場内を医学科と保健学科に分け、最初に共通する事項を説明の後、各学科長による学科の紹介と歓

迎のスピーチがあり、各学科教授によるキャリアパス等の企画もありました。

続いて、福地満正幹事による乾杯の発声があり、祝賀会は

賑々しく始まり、初対面の新入生同志・保護者・大学関係者・在学生との顔合わせ等により、楽しい歓談・懇親の場となり、交流もできたように思われます。また、ご参加いただきました保護者や新入生などの皆様から、温かな言葉をいただくことができ、好評を得た学生後援会の事業の一つではないかと思っております。



今後とも、会員の皆様の温かい御支援をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

事務局

編集後記

医学部学生後援会(PTA)は10年目を迎えましたが、会員の皆様方、学生及び教職員の方々に支えられ、順調な活動ができましたことについて感謝を申し上げます。

今春も、夢と希望に満ち溢れた新入生の皆様の入学を心からお慶び申し上げ、入学後の学生生活に係る支援の一端を担えさせていただければ幸いですと思っております。

本学生後援会は、学生への支援・助成活動[入学記念祝賀会開催、新入生オリエンテーション及びオープンキャンパスへの助成、学生用図書の整備・充実、卒業謝恩会への助成、学生後援会会報の発行等々]などに積極的に取組み、その活動の様子を年2回発行の学生後援会会報により会員(保護者)の皆様方にお知らせしており

ます。

また、学生、保護者そして本学部教職員との交流にも努めてまいりますので、更なる御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。なお、学生後援会の発展と充実のために、会員の皆様からの御意見をお待ちしております。ご寄稿は、郵便又は電子メールでお願い申し上げます。

事務局



東北大学医学部学生後援会(PTA)事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1

TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp

<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>